

帆樫成林

—はんしょうせいりん—

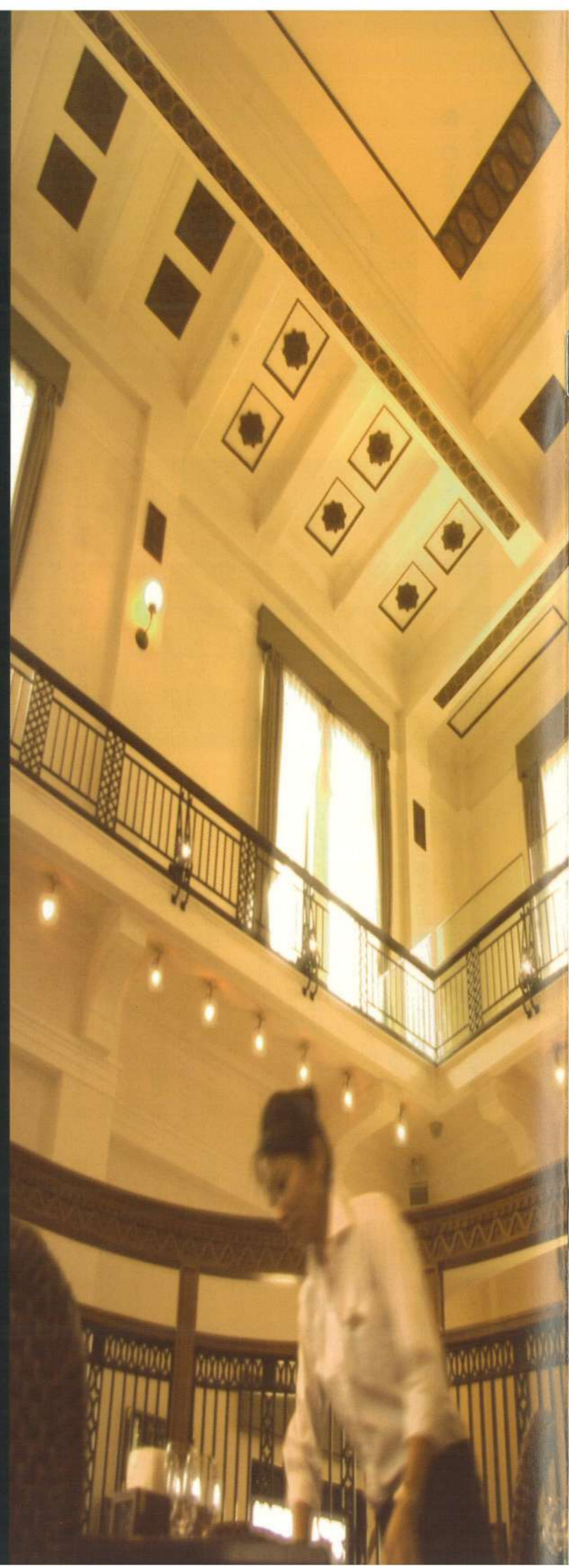
新潟市歴史博物館
博物館ニュース
vol.17

「帆樫成林」とは？

帆柱が柱のように多く立つ様子を表した語。人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

CONTENTS

特集1 開館5周年を迎えて【前編】	P.2-3
特集2 企画展「蒲原平野の20世紀—水と土の近代—」	P.4
常設展示室から 初代万代橋の親柱	P.5
おすすめの一冊 「エフスタイルの仕事」	P.5
みなとびあ研究notes 「新潟」の登場を考える	P.6
館長日記 信濃川の舟運の町小須戸の古民家を訪ねた見学会	P.7
収蔵資料紹介 「明るい生活保健のしるべ」 「明日ではおそすぎる」	P.7
博物館を支えるモノもの CO2殺虫バッグ	P.8



新潟市歴史博物館
博物館ニュース

帆樫成林

Vol.17

■ 帆樫成林「はんしょうせいりん」第17号
■ 編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-1-10
■ 印刷／小野塚印刷株式会社
■ 発行日 平成21年8月25日

【たいけんのひろばプログラム】

楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申し込み・対象参加費
8月8日(土) 10:30~15:00	こどもたいけん講座 「わら紙づくりにちょうせん」	イネわらで紙作り(ハガキ)を行います。	必要 (申込み終了) 500円
8月16日(日) 14:00~15:30	みなとびあで 自然を感じてみよう	みなとびあの敷地で季節をさがしてみよう。	不要・無料
8月22日(土) 14:00~15:30	明かりを つくってみよう	身近なものを使って、手作りの明かりを作ります。	必要 (8/10必着) 定員20名 50円
8月30日(日) 14:00~15:30	水墨画で 絵日記をかこう	夏の思い出を、水墨画の絵日記に描きます。	必要 (8/15必着) 定員15名 500円
9月12日(土) 14:00~15:30	愛のかぶとをつくろう	「天地人」で話題の「愛」のついたかぶとをつくりまわす。	不要・無料
9月19日(土)20日(日) 10:00~16:00 (12:00~13:00閉館)	中国の遊びを たいけんしよう	中国の伝統の遊びを体験します。	不要・無料
9月20日(日) 14:00~15:30	みなとびあで 自然を感じてみよう	みなとびあの敷地で季節をさがしてみよう。	不要・無料
9月26日(土) 14:00~15:30	さらさら砂絵	信濃川や海の砂で、砂絵を作ります。	不要・無料

【蒲原平野の20世紀・関連たいけんプログラム】

日時	タイトル	内容	申し込み参加費
会期中(7/18~8/30) の毎土曜日 13:30~15:00	足ふみ水車をまわしてみよう! キッツオブネを押ししてみよう!	博物館の堀でむかしの田しごとにつかた道具を体験してみよう。	不要・無料

※雨天中止となります。
※水に濡れる場合がございます。濡れても良い服装・タオルなどをご用意ください。

現在開催中企画展

水と土の芸術祭連携事業
「蒲原の20世紀—水と土の近代—」展
20世紀、蒲原平野の低湿地を人々が克服していく歴史を、文書・農具・映像などの資料を通して紹介します。
【会期】2009年7月18日(土)~8月30日(日)
休館日:8月3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)
※中・小学生、土日祝日は無料
※企画展観覧券で常設展示もご覧いただけます。

【観覧料】

	個人	団体
大人	600円	480円
大学・高校生	400円	320円
中学・小学生	200円	160円

【ギャラリートーク】
日時:会期中、毎週日曜13:30~1時間程度
会場:企画展示室
申込み不要・参加費無料(企画展観覧券が必要です)
【講演会】
「蒲原平野の現在・過去・未来—日本—を実現させた米農業の舞台」
講師:望月 迪洋氏(新潟市都市政策研究所 主任研究員)
日時:8月23日(日)午後1時半~3時
会場:本館2階セミナー室
※講演会終了後、講師と企画展を観覧します。(観覧券が別途必要です)
申込み:8月15日(土)必着
(往復はがきまたは電子メールに氏名・住所・電話番号を記入してください)
参加費:100円

博物館を支えるモノ・もの

銀色の大きな袋とガスボンベ。これは、二酸化炭素を用いて殺虫するための器具です。袋の中に古文書や民具などを入れ、中の空気を抜き、その後、ボンベの二酸化炭素ガスを袋に充滿させます。この袋は高気密なので、袋の中の二酸化炭素濃度が高くなり、資料の中に棲息している文化財害虫が致死します。薬剤を使った燻蒸を行える回数は限られているので、この二酸化炭素を使って資料の保全を図っています。



大河ドラマ「天地人」解説講座

「天地人」の真実—直江兼続の時代—
NHK大河ドラマ「天地人」の、歴史的な内容を解説する講座です。
時間:13:30~15:00
会場:本館2階セミナー室
資料代:各回100円
申込み:当日受付(13:00から)、80名程度
講師:長谷川 伸(当館学芸員)

- 第8回 9月5日(土) 天下人秀吉と景勝・兼続II ~奥州仕置と朝鮮出兵
- 第9回 10月3日(土) 国替えと越後遺民一揆

次回企画展

新潟市・ハルビン市友好都市提携30周年記念
「哈爾濱金代文化展」
12~13世紀、中国北方を治めた金王朝の文物(ハルビン市金上京歴史博物館所蔵品)を展示します。
【会期】2009年9月12日(土)~11月8日(日)
【休館日】9月14日(月)、24日(木)、28日(月)
10月5日(月)、13日(火)、19日(月)、26日(月)
11月2日(月)、4日(水)
【通常観覧料】

	個人	団体/前売
大人	700円	560円
大学・高校生	500円	400円
中学・小学生	300円	240円

【限定セット券先行販売】
「チングス・ハーンとモンゴルの至宝展」(9/9~10/4、新潟伊勢丹にて開催)とのセット券1000円(一般券のみ)
販売期間:6/20~9/8

博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマを、毎月第4日曜日にお話しします。
【時間】13:30~15:00
【会場】本館2階セミナー室
【申込み】当日受付、定員50人
【資料代】100円

- 9月の講座:9月27日(日) 「マチとムラの消防」
講師:若崎 敦朗
- 10月の講座:10月25日(日) 「蒲原平野の20世紀」補遺
講師:岩野 邦康

編集後記

博物館ニュース17号、いかがでしたか。先日、「お寺でゴーン」という児童のお寺での宿泊体験が行われました。このイベントは、入船小学校の地域教育コーディネーターの方が中心となって、地域と学校が協力して行っています。みなとびあも、ボランティアスタッフが中心となって、まがたま作りで協力しました。地域の人たちやボランティアスタッフの力を改めて感じ、このようなイベントを通して、みなとびあが地域のみなさんにとって大切な場所になっていくといいなあと感じました。(土田)

■お問い合わせ・申込みは博物館まで...
新潟市歴史博物館みなとびあ
住所:〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
TEL:025-225-6111 E-MAIL:museum@nchm.jp
休館日:毎週月曜日、祝日の翌日、燻蒸期間(6/15~22)
開館時間:9:30~18:00(10月から17:00まで)

開館五周年を迎えて 前編

新潟市歴史博物館館長

甘粕 健

■五周年感謝祭

昨年〇〇八年十月十三日に開催された「みなとびあ五周年感謝祭」は、約六〇〇〇人が集まり、開館時以来の賑わいとなりました。

このフェスティバルはボランティアの主導で、みなとびあと北部開発協議会など地元下町を中心とする多くの市民団体が力を合わせて盛り上げたもので、まさにみなとびあと市民が五年間におわたって育んできた総合力の爆発でした。



5周年感謝祭

■一〇〇万人突破

さらに開館から約五年四ヶ月となる

ナル企画なので、何から何まで自前でやっています。それだけに企画展で取り上げたテーマの研究が深められたとともに、市民の財産として蓄積しています。

また市内各地で資料調査を進める中で、資料を所有・管理している多くの市民と文化施設との協力関係が育つのもメリットです。さらに企画展に取り組み中でまとめられた研究成果を中心に研究紀要が一号から五号まで刊行され、年一回の定期刊行が確立したことは喜ばしいことです。

また市民を対象として調査・研究の成果を分かりやすく紹介するともに、みなとびあが今何をしているかを知らせる博物館ニュース「帆橋成林」の刊行が重ねられ、通巻一六号に達し、年三回の定期刊行を確立することが出来ました。

■資料の整理

資料の研究展示と並んで、資料の収集・保存・整理は博物館のもう一つの大切な使命ですが、全体的に予算と人の手当てが苦しい中で、とかく後回しになりがちな分野です。

みなとびあは発足時に郷土資料館以来の六万点と言われる資料を抱えていましたが、専従の臨時職員を配置して重点的に整理を進め、写真資料、図書等についてはほぼ完了に至りました。一方民俗資料も精力的な整理を進めましたが、膨大な資料が旧税関の石庫と廃校になった木場小学校の旧校舎などに仮収納されていて、最終的な保管場所が未定という難問を抱えています。

本年七月三十一日には、入館者累計一〇〇万人到達という輝かしい記録が刻まれました。

目出度く一〇〇万人目となり、記念品を受け取ったのは南区から来られた鈴木順子さんで、この日は知人と一緒に「水と土の芸術祭」のバスポートを持って企画展「蒲原平野の二〇世紀」を見にこられました。インタビュアーに対して「一生に二度と無いことで嬉しくてポーツとしています」と喜びを述べ、開館の時、笹山前遺跡出土の新潟市最古の土器に感動したのがきっかけで一〇回



100万人達成



旧木場小学校での資料整理

■みなとびあと新市域の施設

市内各区には資料館、公民館、学校などさまざまな施設に多数の民俗資料が収納されていますが、多くの場合それらを整理活用する職員がおらず、場所ふさぎのやっかいものあつかいです。みなとびあは学芸員が頼まれて応援に行っていますが、これには限界があります。そうしたなかで、みなとびあは各地の民具を借り集めて企画展を開催していますが、出品した地域の人々が改めてその価値を知り大事にするようになるという現象が起きています。

企画展「米とくらし」では、旧小須戸町から出品された唐箕から文久元（一八六一）年という製作年代と旧巻町の職人が製作者であることを示す墨書が発見されました。地元では大層喜んで秋葉区

以上来ていると話してくれました。常設展を見てふる里の歴史への関心を高め、リピーターとなって同伴者と一緒に年に何回も来館して企画展を楽しんでくださっている鈴木さんは、これまでみなとびあを支えてきた理想的な来館者像そのものです。

■入館者数の推移

入館者数の推移を見ると開館年の二〇〇四年度の三三万四〇〇〇人台から段階的に減少し、四年目の二〇〇七年度の一二万八〇〇〇人で下げ止まり、五周年を迎えた二〇〇八年度も一二万人台を維持しています。全国の四八都道府県立博物館の二〇〇七年度の平均入館者数は五万六〇〇〇人で近年のみなとびあの入館者数はほぼその倍になります。

今年度は多くのリピーターに支持されている企画展や、「水と土の芸術祭」の共催の企画展の開催、九月十二日開幕の「ハルニシ文化展」のインパクト、ボランティア活動の活性化、知名度の上昇など来館者増に結びつく可能性のある要素が多々あります。私たちは本年度入館者の数値目標を一三万人に設定しましたが可能な目標だと思います。そして

秋の公民館祭りで展示されることになりました。こういう動きが発展し、地域の収蔵・展示施設の建設につながることを期待されます。

■新資料の収集

資料の収集も博物館の大事な使命です。企画展のために地域に入った学芸員によって埋もれていた資料の価値が明らかになり、それが寄贈につながるケースが多いのがみなとびあの収集の特色です。

みなとびあでは江戸時代、明治初期の新潟ゆかりの絵画を新潟の社会文化を語る歴史資料として、美術館とは別の観点から積極的に取り上げる方針で、「新潟・文人去来」(GOS

ED A) 明治新潟を描いた絵師たち」を開催しました。その間に市民からの絵画の寄贈が集中しました。また三芳梯吉の「砂丘物語」の原画の寄贈、良寛の

開館六年目の今年度をもって減少から増加への転換点としたいものです。

■企画展への取り組み

みなとびあでは新潟の地域史にかかわる様々なテーマを掘り下げ、その成果を出来るだけやさしく展示する企画展を、年四回のハイペースで推進してきました。無我夢中の取り組みでしたが、いささかの遅滞もなく、開館第一号の「街の記憶」から現在公開中の「蒲原平野の二〇世紀」まで二二回を重ねたことは評価すべきです。同時にそれぞれの展示にともなう質の高い図録が作られ、その数一八冊に達しており売れ行きもよいようです。

これは多くの新潟市民が、自分にとって関心の深い地域の歴史を真摯に追求するみなとびあの仕事に共感し、熱心なリピーターとなっているおかげです。

みなとびあの企画展は、それぞれの専攻にもとづいて二名の学芸員が担当し、それを全員で応援します。学芸員は九名ですが、この人数で年四回の企画展をコンスタントに開催するのは大仕事で、寝ても覚めても企画展という状態です。しかも巡回展は「よみがえる源氏物語展」だけで、外はすべてみなとびあのオリジ

「館屋の看板」の購入も特筆すべきでしょう。

菖蒲塚古墳(旧巻町)出土の国重要文化財、中世の経塚の資料をあずかることになり二〇年度の新収蔵品展で初めて公開されました。これは防犯上の不安からみなとびあでの保管を依頼した地元のひとつとからの要望に応えたもので、みなとびあに対する信頼のあらわれにほかなりません。

みなとびあでは企画展とは別に毎年一回新収蔵品展・収蔵品展(無料)を開いて好評です。収蔵品展ではテーマを設けて展示し、資料の歴史的価値が市民に理解しやすいよう努力してきました。(あまかす けん 新潟市歴史博物館館長)

企画展 会期と入場者数

年度	展覧会名	会期	入場者数	図録有無
平成16	☆にいがた街の記憶	3.27~5.16	17,891	○
	☆新潟の鑑(収蔵品展)	5.29~6.27	3,183	○
	☆新潟の乗り物	7.10~8.22	10,668	○
	☆長安文物秘宝展	9.11~10.20	38,687	○
	☆ふゆのにいがた(むかしのくらし展)	11.19~2.13	8,266	○
平成17	鉄と日本刀	3.5~3.27	4,023	○
	☆川村修就とゆらぐ幕府支配	4.23~5.29	3,953	○
	☆蒲原のあけぼの	7.16~8.28	11,051	○
	☆新潟の鮭	9.17~11.6	18,135	○
	☆あそび(むかしのくらし展)	11.19~1.29	21,582	○
平成18	☆新潟の絵画(収蔵品展)	2.25~3.12	4,042	○
	☆新収蔵品展	3.18~4.9	3,497	○
	☆よみがえる源氏物語絵巻	4.22~6.4	25,429	○
	☆新潟の舟運	7.15~9.3	4,532	○
	☆手回し機械(むかしのくらし展)	9.16~12.3	7,223	○
平成19	☆旅への想い(収蔵品展)・新収蔵品展	12.12~1.31	2,953	○
	☆新潟・文人去来	2.10~4.1	3,602	○
	☆古写真の中の新・にいがた	4.21~6.3	4,979	○
	☆西暦647年ににいがた	7.21~9.2	4,113	○
	☆船と船大工	9.15~11.11	5,629	○
平成20	☆食の風景(むかしのくらし展)	11.23~2.24	5,969	○
	☆はきもの展(収蔵品展)・新収蔵品展	3.8~4.6	3,148	○
	☆酒蔵	4.19~6.8	4,488	○
	☆ムラの学校・マチの学校	7.19~9.7	3,487	○
	☆絵画が語るみなと新潟	9.20~11.3	5,696	○
平成21	☆米とくらし(むかしのくらし展)	11.15~2.1	4,383	○
	☆特集展示・新収蔵品展	3.20~4.12	3,796	○
	☆GOSEDA	4.25~6.7	3,869	○
	☆蒲原平野の20世紀(〜8/19まで)	7.18~8.30	3,876	○
	合計入場者数(〜H21.8.19)		242,150	

☆:年4回の企画展

この企画展では、新潟市の農村部が広がる蒲原平野の二〇世紀の歴史を紹介しています。展示の柱となるのは、水はけの悪さを改善した排水機場の歴史と、乾田化された耕地に次々に導入された農業機械の歴史です。この二つは、景観の大きな変化をもたらしたという点で、農業と直接関係のない生活を送っている人々にも影響を与えています。

展示プランを詰めていく段階で、まず巨大な排水機場と、大きい資料の多い農業機械とをどのように展示するかが課題となりました。実物資料の展示には数量的な限界があり、模型や映像などを効果的に組み合わせる工夫が求められました。

排水機場の歴史については、排水ポンプなどの実物を展示することは難しいので、模型や写真で紹介することにしました。栗ノ木排水機場と親松排水機場旧機場の模型を借用できたので、排水機場の構造については分かりやすく示せたのではないかと思います。また、荏原製作所（東京都大田区）の御厚意で、同社の工場敷地内に保存されていた「あのみくち式渦巻きポンプ」（幅7m×高さ3m。田上郷排水機場で使用されていたポンプ）の写真



を撮影させていただくことができたので、その写真を実物大に引き伸ばし、ロビー吹き抜けの壁面に展示しました。排水ポンプの大きさと質感とを実感してもらえないかと思えます。

農業機械の歴史の展示は、当館を含め市内各地の博物館や県内の農機メーカーなどに保存されている資料が中心となりました。その他、農研機構・生研センター（さいたま市）や農林水産技術会議事務局（つくば市）から貴重な資料をお借りすることができたので、ロビー・エントランス

のスペースも活用して、多くの資料を展示することができました。

また8ミリフィルム（豊栄博物館山口賢俊コレクション）に記録されていた実際に動いている農業機械の映像を、展示コーナー各所に設置した小型のモニターで上映して、農業経験のない観覧者にも機械類の動きや実際の使われ方を実感してもらおうにしました。

こういった展示手法をめぐる課題のほか、排水機を中核とした近代的な土地改良事業の歴史と、乾田化した後に展開した農業の機械化の歴史という二つの流れを一つの展示空間にまとめるという課題もありました。

歴史的には両者は相互に関連して展開していくのですが、その関係を展示動線にまとめることが難しかったため、前半を土地改良のコーナー、後半を機械化された農業のコーナーに二分して展示を構成しました。後半の機械化された農業については、新農林社（東京都千代田区）から雑誌「機械化農業」のバックナンバーを多数お借りすることができたので、農業の機械化にかける当時の農業関係者の情熱を生々しく伝えることができたのではないかと思います。



このほかにも、一九五九〜六〇年の豊作の様子を伝える「新潟日報ニュース」の映像や、靴を脱いで上がってみることができ床置き地形図など、見所はたくさんあります。歴史博物館ではあまり並べて展示されることのない資料が一堂に介していますので、この機会に是非博物館に足をお運び下さい。

（文中敬称略）
（文中敬称略）
（いわのくにやす 学芸員）

―初代萬代橋の親柱―



初代萬代橋の親柱

瀧ではこのことを知る人もなく、月日が流れました。

1989（平成元）年、柏崎の方から、市制100周年を迎える新潟市に、柏崎市でこの親柱が雨露にさらされて傷んでいることが伝えられました。早速、新潟市は職員を派遣し、中村の子孫や神社の氏子の方々と話をして、灯籠や資料を調べました。そして、新潟市への寄贈、里帰りを依頼しました。石井神社の氏子の皆さんは寄贈を快諾してくださいました。この年に里帰した親柱は、腐食した部分が取り除かれ、丹念に保存処理がなされました。1991（平成3）年からは、新潟市郷土資料館で展示されました。

みなとびあ開館にともなって、親柱は、本館常設展示室に移されました。今は架橋された時の高さに合わせて立てられて、初代萬代橋の模型を日々眺めています。

（伊東祐之 学芸課長）

常設展示室から From a Permanent Exhibition Room

1886（明治19）年に架けられた初代萬代橋は、1908（明治41）年3月の新潟町の大火で新潟側が焼け落ちました。2代目の萬代橋は、焼け残った地杭を用いて初代とほぼ同じ姿で翌年12月に復旧しました。現在、万代クロッシングに展示されている地杭は、大火にも焼け残って、初代・2代と用いられた杭です。

初代萬代橋の4本の親柱も新潟側の2本は焼失しましたが、流作場側の2本は焼け残りしました。経緯はよくわかりませんが、この流作場側の2本のうちの1本が、柏崎へ運ばれました。この親柱を入手したのは、柏崎町の経済人で、文化人でもあった中村藤八でした。1910（明治43）年、中村は、柏崎の名勝を詠んだ「柏崎四十八題」を石に刻み、この石で西本町2丁目の石井神社境内に、小さな丘を築きました。そして「丘上二新潟萬代橋ノ柱木ヲ掘工テ常夜灯トナシ」奉納しました（「奉納のちらし」による）。この山は萬代山と呼ばれていますが、後にこの築山はなくなり、常夜灯は境内の別のところに移されて灯籠のようになっていました。新



「奉納のちらし」(部分)

に製品づくりの可能性をさぐります。検品し、タグをつけ、販路を開拓するのも、すべて二人でこなすのです。ものづくりの現場が買い手に見えにくくなった今、彼女たちは、つくり手の意識を身近に感じてもらえる流通のかたちを模索しているようです。つまり、よい製品が正しく評価され、長く使われ、愛されることをめざした大局的な「デザイン」。伝統技術を「タカラモノ」とするのではなく、生活の中できちんと循環させようという試みなのです。彼女たちの熱い思いが詰まった一冊、ぜひ一読を。

（木村 一貫 学芸員）



おすすめの1冊 『エフスタイルの仕事』

（五十嵐恵美・星野若菜 2008年8月 アノニマ・スタジオ）

「エフスタイル」という、デザイン事務所兼店舗が新潟市にあります。ともに大学で生産デザインを学んだ五十嵐恵美と星野若菜の二人が設立しました。本書には、彼女たち自身の言葉で、その活動の軌跡が綴られています。「エフスタイル」の仕事は、商品デザインの受注といった類のものではありません。二人は、亀田織やシナ織などの、いわゆる地場産業の現場にはいり、生産者の熱意や事情に共感しながら、とも

去る六月二十八日みなとぴあファンクラブの一行二十一名は信濃川の水運で栄えた小須戸町の伝統的街並と、史跡公園の整備が進む八幡山遺跡を訪ねるバス見学会に行ってきた。私は長年にわたって市民とともに学ぶ見学旅行を組織して来たが、考古学的な遺跡が中心で、その土地で生活している住民が継承している街並や古民家の見学会は初めてでした。そこで今回は私の初体験になった前半の小須戸町の見学会を中心に報告することにします。



みなとぴあ小須戸の市民の交流は企画展の資料調査で学芸員が度々現地を訪れたのがきっかけでした。その後地元では古民家の保存活用を核にして新しい町作りをしようという気運が高まっていて、その最中の見学会となりました。当日は美しい古景観が残る信濃川右岸の堤防に沿って南下し小須戸に到着、村井豊さん等町作りのリーダーの皆さん、この機会にふるさとの歴史を学ぼうと集った地元の婦人グループを迎えられました。

地元ではこの日に合わせて薩摩屋(酒屋)、割野屋(呉服屋)、松尾邸の三軒の町屋の公開の準備をしていただきました。公開のために改修

信濃川の舟運の町小須戸の古民家を訪ねた見学会

したり、現に生活している住宅であつたりすることを思うと、所有者の皆さんの並々ならぬ意気込みが伝わってきます。見学の際には、御当主の説明もつかうことが出来ました。いずれも間口が狭く奥行きが異常に深い短冊形の敷地で、表口から裏口まで突き抜けた土間に沿って多くの間取りが縦一列に連なり、その一部には坪庭があります。京都の町屋を彷彿とさせますが、あちこちに創意工夫が加えられていて興味がつきません。

屋敷は老舗の料亭和泉屋で取り、ここで同家所蔵の文政九(一八二六)年の小須戸町絵図を拝見しました。見学会の後半では八幡山遺跡と新潟県埋蔵文化財センターを訪れ、一変して考古学の世界に浸ったのでした。

「新潟」の登場を考える

長谷川 伸

「新潟」という地名の初出については、永禄十一(一五六九)年と年代推定される上杉輝虎(謙信)書状に見える「新潟」という漢字表記とされてきました(越佐史料)巻四)。その後、国立歴史民俗博物館蔵田中穰氏旧蔵典籍古文書の「永禄六年北国下り遺足帳」という史料の中で、永禄七年六月(七月条の記事の中から新潟に関する記事が発見されました。

これは永禄七(一五六四)年頃、京都醍醐寺の僧侶が、東日本の醍醐寺の領地を巡行した時の旅の帳簿です。この史料の六月二十七日条を見ると、「十文、ニイカタノワタリ」と表記されています。数日後の記事では、「この僧は山上(三条)から信濃川を船で下り、「新方」に到着したと記録されています。ニイカタノワタリは、室町時代に信濃川左岸に新しくできた町で、これが「新潟」となると考えられます。

は、「正春 永正十七年四月八日 新方 田中トノ」これには「新方」とあります。大永八(一五二八)年の記事には、「越後新方」と出てきます(表)参照。新潟の初見は永正十七(一五二〇)年となり、従来よりおよそ四〇年ほど遡ることになります。ただし、これは後に取りまとめられた過去帳です。この後に示されたものかどうかについては、さらなる検討が必要です。

さて、新潟登場の背景を知るには、永正年間この地域で何が起こったのかを、考えてみる必要があると思います。永正四(一五〇七)年、越後では謙信の父親である守護代長尾為景が、守護上杉房能に対して下剋上を起こし、新守護として上杉定実を擁立しました。為景はこれ以降続く国内の内乱を武力で制圧し、さらに守護定実を傀儡化しました。永正十(一五二二)年、定実は為景に不満を持つ越後国内の諸將とともに反乱を起こしましたが失敗に終わり、為景は越後国主として実権を握りました。

収蔵資料紹介

二つの資料は新潟市保健所が昭和三十年前後にかけて発行したものです。新潟市保健所の沿革は、昭和二十五(一九五〇)年四月に流作場にあった県立新潟保健所が新潟市に移管されることにより発足します。「明るい生活保健のしるべ」によれば、新潟市では、建物の増改築工事を始め、二十七(一九五二)年三月に竣工します。敷地面積は三九七、七三坪、床面積三二八、九二坪の二階建ての建物です。保健所には相談室・診療室・実験室・講堂などがありました。また、結核診療室もあって結核対策に追われていた当時の様子をうかがい知ることが出来ます。

所長の下に総務・予防・衛生・普及の四つの業務がありました。計十七の係が設置され、健康相談・集団検診・母子衛生・



この二つの資料は、新潟市保健所発足後の施設と職制並びに戦後初期の衛生行政とその取り組みの足跡を記す貴重な資料で、昨年度新たに当館に寄贈されたものです。

(若崎敦朗 学芸員)



保健婦の家庭訪問、栄養指導・予防接種・防疫・環境衛生・食品衛生・衛生教育などに従事していました。

「明るい生活保健のしるべ」
「明日ではおやすぎる」

「新潟」とは、この永正年間の戦乱を通じて実権を握った長尾為景が、守護上杉氏の湊である蒲原津から流通や徴税などの経済的な役割を奪い取り、「新潟(方)」という新しい支配拠点となる湊を整備したものでないかと考えています。

【表】越後過去名簿(新潟分抜粋)

NO	法名・戒名	年月日	西暦	住所と施主・供養方法(史料表記)
1	正春	永正十七年四月八日	1520	新方 田中トノ
2	秀琳	永正十八 三月廿日	1521	新方タマヤ年ヨリ
3	妙阿弥	永正十八 十月十五日	1521	新潟府中屋ムスメ
4	敬仏	大永二 六月十一日	1522	新方与一右衛門内
5	善光 光金	大永三 四月七日	1523	新かた大クラ
6	道照	大永五 二月廿四日	1525	新方 左藤衛門
7	敬佛	大永五 十二月廿九日	1525	新力タ 小玉トノ内
8	妙高	大永六 七月廿五日	1526	新潟左藤衛門内方
9	道源	大永七 正月八日	1527	新潟本田彦四良
10	妙金	大永七 五月二日	1527	新方 高山左近五良
11	善通	大永八 正月五日	1528	越後新方和田藤三郎立之
12	妙清禅尼	大永八 卯月十九日	1528	越後新潟津屋四良衛門内方

出典:山本隆志「史料紹介」高野山清浄心院「越後過去名簿」(写本) (同参考文献)より抽出作成。年代の古い順に抜粋した。